

2月初めのある日、諏訪湖畔の旅館に友達と泊まった。宿の窓から湖を見ると、さざ波が立っていた。本来なら、まだ一部では氷が張っている時期だが、と思った。そのういえば、立春を過ぎたころ、今季の御神渡りの観察を終了する旨の報道があった。この冬は、ほとんど全面結氷せずに終わったようだ。

私が御神渡りを見たのは7年ほど前のことだった。

諏訪湖のさざ波

友の中には諏訪湖でスケートをやったという人もいた。私を含め他の友も、小学生のころは田んぼでスケートをやったという話題になり、盛り上がった。テレビの画面には、標高

の高い地域の小学校で校舎の北側にリンクを造り、子供たちがスケートを楽しんでいる光景が映し出された。このような光景が至る所で見られるように、われわれは少しでも地球温暖化を抑制する努力をせねばならないと思いが、諏訪湖を眺めた。

用事で諏訪へ行く途中、岸边に多くの人がいいたので車を止めて湖面を見ると、氷がせり上がって、とげとげしい山が湖の中央部に筋のように伸びていた。壮観な光景に感動した。

御神渡りの観察は1443年ごろから続いているという。途中、記録がないときもあったようだが、他に類を見ない「気象観察」だと言われ

点差口 こうさてん

もう一度、御神渡りを見たいな。

(安曇野市穂高、荻原義重、80歳)